

人生ハンド仏句

第92号
H.21.11.1
(毎月1日発行)

お会式

(日蓮聖人のご入滅と偲ぶ法要)

住職 谷川寛俊

日蓮大聖人さまご入滅第七二八回目のお会式が巡ってきました。今年も全国各地の日蓮宗寺院では、日蓮大聖人がお亡くなりになられた十月十三日を中心に大聖人の遺徳を偲ぶ法要が営まれます。(真成寺は例年十一月三日に厳修されます)

お亡くなりになられて七百年以上もの歳月が経った今なお盛大に御命日の法要が行われているのです。特に東京池上の大本山本門寺の万灯行列は、有名です。毎年数十万の人出で賑わいます。

晩年体調を崩された大聖人は、弘安五年(一一八二年)九月八日数人の弟子を伴い馬に乗って九ヶ年間を過ごされた身延のお山をあとに常陸(ひたち)の湯に向かわれました。

約二百キロの道のりを信者の家に泊まりながら十一日掛けて池上宗仲の館(大田区池上)にご到着。容態は悪化しましたが、弟子・信者らに「立正安国論」を講じて過ごされました。十月八日、ご入滅を悟られた大聖人は、ご自身亡き後の法華経を弘めるための柱となる六人の弟子を定め(日興上人、日朗上人、日昭上人、日頂上人、日持上人、日向上人)十日には形見分といえる、「御遺物配分」をされ、十一日には経一丸(後の日像上人)を枕辺に呼ばれ京都への法華経弘通(ぐづつ)を託され、十三日午前八時頃、弟子・信者らが法華経を誦する中、静かにその波乱に満ちた六十一年の御生涯の幕を閉じられたのであります。ご遺骨はご遺言により身延へお帰りになることとなり、初七日を終えた二十一日に池上を出発、二十五日に身延にご到着されました。

「立正安国論」を講義し、弟子達に遺言し、人々の唱題の中で亡なられ

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoutoyama108/>

ました。生涯の終わりに臨む心と姿を大事に考えられた、この上なく素晴らしいご臨終でありました。お会式は宗祖日蓮大聖人に対する単なる回向法要ではありません。積尊の正しい教えである法華経とお題目を私達に教え示して下さった日蓮大聖人様への「感謝」と「報恩」を捧げる意味があるのです。

今、社会は大きく揺れ動いています。政治の混乱、経済不況。国際紛争、恐ろしい犯罪の数々。これらは皆、立正安国論の教えによらなければ、真の救済はもたらされないのがあります。

本年は、この「立正安国論」を時の幕府に献上されて丁度七五〇年に当たります。宗門ではいろいろ記念イベントを開催しています。改めてお会式の行事に参列し、思いを新たにしたいものです。



「ゴーン、ゴーン・・・」となる
鐘の音は、
「御恩、御恩」の感謝の促し。